

## Lamaningao Pheophet 氏 学位審査結果の要旨

主査：藺田 精昭

副査：藤澤 順一、岡崎 和一

タイ肝吸虫は胆管癌の原因となり、また、申請者の母国ラオスでは多くの感染者が存在することから公衆衛生上の重要な課題となっている。従来、タイ肝吸虫に形態学的に類似した腸内吸虫との鑑別診断は、患者の糞便を用いる鏡検法で行われていた。しかし、虫卵の形状が酷似している2種の寄生虫の鑑別診断は困難であった。申請者は、患者の糞便を用いる鋭敏な **Combined PCR** アッセイ法を開発し、肝吸虫と腸内吸虫の鑑別診断を可能とした。本法は、従来の鏡検法や血清診断法に比べて特異度、感度共に優れており高く評価できる。以上より、十分に学位に値すると考えられた。